令和８年度木津川市防災訓練に参加しての感想

木津防災士リーダー連絡会



◆ 長時間協力して頂き有難うございました。雨天の中、参加人数は90名を超える大入りだったと思います。今後とも、宜しくお願いします。

◆ 訓練とは云え障害者の方の生の声より、いみの深さを感じます。
今後における、訓練並びに災害が起きた場合等、次回連絡会において、情報共有が出来る機会を検討したいです。



◆ 防災リーダーの皆様、お疲れ様でした。雨にも拘わらず昨年並みの参加者があり、防災意識の高まりを感じました。
又、防災リーダーの方々の活躍は素晴らしいものでした。

◆ 社会福祉課の中畑さんの司会で、環境課の岩本課長、危機管理課の石津課長、聴覚障害の松岡さん、手話通訳者、木津町区の田中防災リーダー、私の　メンバーで 12 時から30分間行いました。

振り返りの概要

【聴覚障害者の今回の感想】

○ 今回の参加は3回目、前回までは見るだけで終わってしまった。今回は要約筆記者がおられたので、受付から 3 種目の訓練終了まで理解できた。

○ 聴覚障害者の立場から、

△ 前からの声掛けには対応できるが、後ろからの声掛けには対応不可。

△ 聴覚障害者の特徴として、周りの状況把握のため絶えず周囲をキョロキョロするのが、聴覚障害者の判断材料です。

△ 無料の音声文字変換ソフトがあるので、市職員や健常者の方々がインストールして頂ければ会話は可能となります。

△ 車イスの4Fへの案内表示も必要。

【その他の方々の主な発言は次の通り。】

△ 車イス利用者には歩道、通路の段差、傾斜が危険要素。

△ 平素からの近所付き合いが、災害時の共助に繋がる。

△ 防災機器等の更新が必要では。

△ 平素からの近所付き合いが、災害時の共助に繋がる。

△ 避難所への歩道、通路の段差、傾斜のある所は車イスには危険なので補修が必要。

△ 防災用機器等の更新が必要では。

△ 防災情報の取得方法は？

△ 車イス利用者支援のために、車イスの操作方法の周知も必要では。



◆ 皆様お疲れ様でした。ご協力ありがとうございました。

◆ PLANTでの初めての災害ボランティアセンター設置訓練も、雨の中運営委員各位のご協力のもと無事終了することが出来ました。
今後ともよろしくお願い致します。



◆ 簡易トイレの組み立て、説明しての案内は一人では説明と質問等でいっぱいで周りの次が分からず空きの時間がありました。だけど無事に終えた事が何よりで皆様の応援と御尽力に感謝してまいりす。



◆ 本日は、皆様ご苦労さまでございました。簡易ベッドてい、段ボールベッドの組み立てエリアを担当いたしました。一番目に、段ボールベッドの上へのクッション、ブランケットの敷き込みが、昨年はあったので、来年は、是非敷き込みして寝てもらいたいと考えます。

◆ 二番目は、田中さんにフォローをお願いして、簡易テントの中に、段ボールベッドを入れて実演が、できたのは、よかったと考えます。

最後に、グループ分けは、あらかじめ椅子に同程度の方がお座りにな るよう、誘導して円滑にローテーションするようにすると共に、割合早く進む段ボールベッドでは、解説内容を多少増やせば良いと考えます。

◆ 本町西の自主防災会が、発足し木津川市にも届出済みなので来年度に、期待したいと考えます。有難うございました。又、ご苦労さまでございました。

◆ 木津小学校の校庭が、余りにぬかるんでいたので、手押しのシルバーカーや車椅子利用の方は、遠慮されました。

手をつないでの軽度しょう害の方は、参加されました。

実際の避難は、木津小学校東通用門からは、かなり足元が、悪くなることが、今回分かりました。



◆ 各コーナーの進行についてですが、班分けはこれまで通り、参加者の約1/4 の椅子席を予め設け、所謂、「ディレクター」と「タイムキーパー」を配置(一人で十分)、14分終了少し前に、「終了と移動」を、マイクにて呼びかけ、誘導を促しては・・と思いました。



◆ 雨の中、多くの地域住民に参加いただきましたこと、安心いたしました。
また、KCNの、取材もあり、多少は、緊張の中での進行でした。

◆ 参加者受付記入用紙は、再考すべき点が、多くあります。

不二荘園金田自治会長には、多くの住民の、避難ご協力ありがとうございました。また、車椅子での移動の問題点については、振り返りで、

◆ 福祉課より、報告がありました。段差、横断歩道の幅、坂道等想像以上に、困難を極めたこと。
聴覚障がい者が、避難所に来られた時の対処について、障がい者自身の意見、参考になりました。
今後いろんなケースを、経験し、災害時対処出来るようにしていきます。



◆ 避難所へ避難された方が、椅子の準備や収納、その他の作業においても主体的に行動してくださったこと。
（「避難所の開設は自分たちで行う」という意識を少しでも醸成することに寄与できたのではないかと感じます。）

◆ 雨天の中、地域自治会や自主防災会が自主的に健常者を車椅子に乗せて避難ルートの確認を行ってくれたこと。
（車椅子での避難行動における問題点の洗い出しができました。）

◆ 避難所開設において総括責任者のもとで役割分担が整理され、自主防災会と地域防災リーダーが市職員に頼らず中心的な役割を担えたこと。
（災害時に市職員が少数になることを想定した体制と指令体系を作り上げることができました。）

◆ 発電機始動訓練では災害時の状況を想定し、事前に準備や情報を与えずに避難者の方に起動体験をしてもらったことで、いくつかの課題が顕在化したこと。（うまくいかなかったことで、かえって一般の避難者視点での問題点が明確になりました。）

◆ 発電機操作体験において、始動がうまくいかない旨の報告を総括責任者へタイムリーに伝えられなかったこと。